

令和 6 年 6 月 24 日現在

機関番号：32707

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20H01648

研究課題名（和文）越境する日本人国際結婚家庭の教育意識 - アジア五か国でのライフストーリーから

研究課題名（英文）Educational beliefs of families with Japanese marriage migrants: Analysis of life stories in five Asian countries

研究代表者

渡辺 幸倫 (Watanabe, Yukinori)

相模女子大学・学芸学部・教授

研究者番号：60449113

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 8,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、アジア5か国（中国、韓国、フィリピン、タイ、シンガポール）で子育てする国際結婚家庭に着目し「日本人当事者」と「相手方配偶者」の両者を対象に教育意識を軸としたライフストーリーを収集・分析した。2022年度にはコロナ禍による影響も薄れ、中国を除く地域の調査研究を十分に進めることができた。2023年度には現地調査や対面での全体会議なども行うことができ、相互の研究を十分に共有、議論を深めることができた。結果として研究成果を各地の学会発表や論文として公表することもでき、コロナ禍による影響はあったが当初の想定していた成果に近づけることができたと考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義としては、国際結婚家庭の教育意識を多国間で比較分析することで、文化的背景や社会的要因が子どもの教育方針や学校選択に与える影響を明らかにしたことがあげられる。特に、日本人親の視点とその配偶者の視点の両者から教育意識の変容やアイデンティティ形成の過程について分析することで、これまでにはない深い洞察を得ることができた。また、社会的意義としては、国際結婚家庭における教育支援の重要性を指摘し、教育政策や家族支援プログラム改善の視点を提供した。

研究成果の概要（英文）：This study focused on intermarriages raising children in five Asian countries (China, Korea, Philippines, Thailand, and Singapore), collecting and analyzing life stories centered on educational awareness from both Japanese spouses and their partners. In 2022, the impact of COVID-19 had subsided, allowing for substantial progress in research in regions other than China. In 2023, we were able to hold in-person meetings with all collaborators, which was a significant achievement as it allowed for the full sharing and in-depth discussion of each other's research. As a result, research findings were presented at academic conferences and published papers in journals and books. Despite the impact of COVID-19, we believe that we were able to achieve the results initially envisioned.

研究分野：教育社会学

キーワード：国際結婚 在外日本人 移住 教育戦略 ナラティブインタビュー

1. 研究開始当初の背景

(1) 教育分野における国際結婚に関する従来の研究は、結婚移民女性と子どもの適応問題に焦点が当てられたものが多く、父親を対象とした研究は極めて限られてきた。これは国際的にも同様の傾向だが、日本を例にとれば、2018年6月の段階でNII 学術情報ナビゲータの論文検索(フリーワード)で、「国際結婚」「多文化家庭」「多文化家族」のいずれかと「教育」「子育て」のいずれかを含む論文123件を抽出し、主な研究対象についての内容分析を行ったところ、母親(48件)、子ども(29件)、両親(22件)、父親(0件)、その他(政策、教育機関など)(24件)であった(渡辺 2019)。

(2) 日本人の国際結婚(「夫妻の一方が外国籍」の婚姻)の研究では、概して日本を生活の本拠とする者を対象とすることが多く、国外で結婚生活を送る者の研究は相対的に少ない。しかし、厚生労働省の人口動態調査(1995-2017)によると、日本人の国際結婚総数がピークを迎えた2006年に18.9%であった国外届出率は、2017年に30.3%(9,339件/30,796件)を超えた。これに比例し国外生まれの子どもも増加している。日本人の国際結婚を論じる際には、国内のローカルな問題としてだけでなく、グローバルな人の移動を念頭に、海外への日本人結婚移住者を考慮に入れる視点が求められる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、アジア5か国(中国、韓国、フィリピン、タイ、シンガポール)における日本人結婚移民家庭の教育意識を明らかにすることである。具体的には、結婚移住から子育てというトランスナショナルな空間におけるプロセスの様相をライフストーリーの手法を使って描写・記述し、ローカルな要因との関係の中で生起する移住した親(および子ども世代)の自己形成プロセスを考察することで、アジアへの日本人結婚移民の教育意識がどのように構築されているのかを明らかにする。また、各国で集中的に同一枠組みによるライフストーリー・インタビューを実施することで、アジア各国の国際結婚家庭の教育意識の特徴を析出する。

3. 研究の方法

本研究ではアジア5か国への日本人結婚移住者男女とその配偶者を対象とし、ライフストーリー・インタビューを行う。さらに現地研究協力者の参加により、配偶者側の語りとの対比や居住国ローカルの文脈を担保することで、アジア5か国における日本人結婚移民の教育意識に関する新たな知見を提供することを目指す。

当初の予定では、以下の3つの課題に取り組むこととした。

課題1: 多文化環境下の子育ての諸相の描写・記述

2020年度中に各国で調査方法共有のためのセミナーを開催し、予備調査を開始する。2021-22年度には、本調査として、フォーマル・インタビューとインフォーマル・インタビューの両方を行い、各国で日本人側10人、配偶者側10人の20人、5か国合計100人を目標にインタビューを収集する。可能な限り同一家庭の日本人とその配偶者にインタビューを行うようにする。

課題2: トランスナショナル空間とローカル文脈における教育意識の分析

各国の日本人側と配偶者側のインタビュー内容を比較し、ローカルな文脈とトランスナショナルな実践としての教育について、特に言語選択、学校選択のプロセス等を核に検討する。日本側研究者は現地日本人社会での子育てについての知識、海外の研究協力者は現地社会に関する洞察に基づいた知見を提供する。

課題3: アジア5か国の比較と新日本人移民像の析出

課題2で得られた5か国の知見を比較し、新日本人移民像を析出する。研究成果は、国際誌への論文投稿、各国学会での発表、現地セミナー開催、多言語リーフレット作成、インタビューのストーリー化、多言語漫画化などを通じて発信する。

研究体制

代表者は全体の管理統括、各国の進捗管理、研究方法論の提供を行い、各分担者は各専門分野からの理論的貢献、担当国での日本語インタビュー実施、進捗管理を行う。海外の研究協力者はイ

インタビュー実施、居住国についての洞察の提供、現地調査の紹介を行う。

4. 研究成果

各課題の実施の状況と各国での調査結果の概要は下記の通りであった。

各課題の実施概要

課題1：多文化環境下の子育ての諸相の描写・記述

コロナ禍の影響で調査方法の再構築が必要となり、2020年度中にはオンラインでの研究会を開催し一定の調査方法の共有を模索した。その結果、2020年の後半からは本研究以前からネットワークのある人々にオンラインによるインタビューを行うことを中心に調査を開始した。2021年度もオンラインを中心にした調査の実施を継続したが、極めて限られていたものの一部対面のインタビューも可能となった。2022年には一部渡航制限も緩和され、現地調査や対面による研究会を実施できるようになった。また研究協力者の異動や環境の変化などで辞退があったため、研究体制を一部再編することで対応した。2023年度には現地調査の実施も再開することができた。現地調査の機会が極めて限られてしまったためインフォーマル・インタビューの収集が特に制限されてしまった。その結果、収集できたインタビュー数は当初の目標を達成できなかった。しかし、オンラインでのインタビューや少ない調査機会を有効に活かすことで考察に必要な最小のインタビューは実施することができたと思う。

課題2：トランスナショナル空間とローカル文脈における教育意識の分析

各国の調査内容を現地の研究協力者との議論を通じて、深化させることができた。具体的には、対象国に共通する事項や各国独自の事情が明らかになると同時に各家庭の考え方の多様性も明らかになった。一部について述べれば、日本語の習得は、現地語や英語との関係の中で考えられていること、学校選択は、日本人学校と現地の学校のどちらを選ぶかが重要な決定ポイントとなり、各家庭は子どもの教育環境や通学の利便性、将来の進路などを総合的に考慮して決定していた。これらの知見は、国際学会、国際査読誌、書籍の形で発表した。詳細については、次項の「各国での調査結果の概要」で詳述する。

課題3：アジア5か国の比較と新日本人移民像の析出

各国の研究成果の公表が大きく進展したのに比べて、比較検討の成果の公表は期間中十分に実施することはできなかった。現在（2024年5月段階）全体の内容を統合した書籍の出版を計画中だが、その中で十分な比較検討を行い、成果を公表したい。

各国での調査の概要

中国・台湾

初年度から中間報告書発行まで上海社会科学院のQIU Xiaolan氏を研究協力者に研究を進め、在中国の日中6家庭へのインタビューなどを通して調査を進めた。そこからは幼児期の教育が子どものアイデンティティに影響を与えるという理解はあるものの、明確な計画や教育戦略を持つか否かはその家庭の置かれた社会的、経済的、地理的要因によるということがわかってきた。しかし、やむを得ない事情により2022年にQIU氏が研究から辞退することとなってしまった。

その後、一時研究を中断することとなったが、台湾大学の服部美貴氏の参加を得て再開することができた。服部氏は本研究への合流以前から長年在台湾の日本台湾国際結婚家庭の調査研究を行っており、そこから得られた洞察と本研究の枠組みを接続し、新たに6家庭を対象に実施したインタビューを中心に、近年の国際結婚家庭の新たな傾向に迫ることができた。そこでは台湾の教育環境の多様化を背景に親の教育方針や生活拠点に応じた学校選択が行われていること、日中バイリンガル教育への強い関心、日本人父親の積極的なかわり、日本語継承語教育の役割などが明らかになってきた。

韓国

日本をベースにする研究分担者の宣元錫氏と韓国江原大学のRyu Seungho氏を中心に行った。コロナ禍による調査の制限を奇禍に、オンラインで結婚生活を配信する在韓日韓家庭に着目し、いわゆるYouTuberでもある全6組12人の日韓夫妻（すべて妻日本夫韓国であった）へのインタビューを実施した。

その結果、子供の教育において全ての家庭において母親による日本語教育の実施、地元の公立学校への在学（インターナショナルスクールなどへの就学は見られなかった）が確認された。韓国の競争的な教育環境の中でも日韓父母はいわゆる学習の成就より子どもの自主性を尊重しながら、コスモポリタンの多文化感受性を高める教育を実践していた。また、YouTuberである対象家族にとってYouTubeは経済的資源であるだけでなく、他の日韓家族と繋がるネットワ

ーク機能も果たしていた。また子どものバイリンガルな言語使用や異文化が混在する家庭環境は視聴者を増やすコンテンツであり、より多文化的な家庭作りにプラスに働いていることが明らかになった。

フィリピン

研究代表者の渡辺と途中から参加いただいた Asian Center, University of the Philippines-Diliman の Jocelyn O. Celero 氏で研究を進めた。渡辺の研究では、2018 年と 2021 年に実施されたインタビューにより、フィリピンに住む日本人父親が直面する課題が探求された。コロナ禍は現地日本人の生活に大きな影響を与え、フィリピンでの生活の安全性や経済的持続可能性について再評価する動きがあった。一方、日本人父親は、家族の主要な収入源であることと、育児に積極的に参加することの間で葛藤していた。またフィリピンに特徴的であったのが、英語教育で、フィリピンで英語を学ぶことが子どもにとって大きな利点であると考えていることが分かった。

Celero 氏の研究からは、より大きな時間的枠組みとして、同氏が行ってきた過去の研究(2012 年から 15 年ころ)のインタビューと 2022 年に行われたインタビューの結果を比較することで、日本語優先型から日英バランス型の言語教育、学校選択の傾向が明らかになった。また近年はオンライン教育や日本とフィリピンの両方の文化を経験させることにより積極的になっている傾向が見られた。ただしこのような年代間の教育実践の差に関わらず、日本語教育や経済的安定性などが重視される点は共通していた。

タイ

研究代表者の渡辺、研究分担者の藤田ラウンド幸世氏、チェンマイ大学の Petcharee Rupavijetra 氏を中心に実施した。調査は大きく二つに分け、バンコク地区の研究を渡辺と Rupavijetra 氏を中心に、チェンマイ地区の研究を藤田ラウンド氏と Rupavijetra 氏が担当した。

バンコクの調査では、5 組の日本とタイの国際結婚夫妻にインタビューを行い、子供の言語教育や学校選択に関する決定プロセスを調査した。参加者のほとんどは高学歴で、家庭内で使用される言語は、夫婦が初めて出会った場所やその時に使用していた言語に影響されていた。また学校の選択肢としては、私立学校、日本人学校、インターナショナルスクールがあり、家庭の経済状況や通学の便などが選択に影響を与えていた。日本人学校以外では、親が教えるか、日本語補習校やプライベートチューターを利用していた。

チェンマイの研究では、2023 年 1 月から 2 月にかけて 3 週間にわたって実施した 8 組の日本・タイの国際結婚カップルのライフストーリーを検討した。結果として、インフォーマントは全て、チェンマイの日本語補習校に子供を通わせている家庭で、補習校の教育を通じて、家庭内での日本語使用や読み書きの能力を維持することが可能となっており、地元の学校教育に追加する形で日本語教育が行われていることが分かった。また教育動機や親の態度は、単に将来の成功や経済的な要因だけでなく、家族の幸福(ローカルおよびグローバルな価値観)が重要な要素であることが示唆された。

シンガポール

シンガポールの研究は南洋工科大学の Glenn Toh 氏を中心に実施した。6 つの家族へのライフストーリー・インタビューを二つの観点から探究した。

一つはシンガポールに住む日本・シンガポール国際結婚家族の教育的志向、文化的志向、生活とアイデンティティの軌跡の検討である。シンガポールの歴史と現代におけるアイデンティティ形成、日本社会における同質性と異質性の信念が家族に与える影響を明らかにした。日本とシンガポールの教育システムの特性を比較し、これらの家族の教育的選択肢についても検討した。その結果、子供たちの教育とアイデンティティの未来が、社会経済的環境や現実の生活経験に基づいて創造的に想像され、それぞれの家族が多様性と流動性を探求する必要があることが確認できた。

もう一つは、日本・シンガポール国際結婚家庭が直面する空間的な課題と経験についての検討である。カップルが異なる場所から来る場合、どこで出会い、家族を築き、子供を教育するなど空間的な影響が考慮されなければならない。空間(space)と空間性(Spatiality)は可塑的であるため、現実の生活実践にどのように現れるかが重要となる。調査は、3 つの家庭の生活を詳細に検討し、物理的および感情的な地理関係がどのように相互作用するかを探った。その結果これらの家族が空間をどのように概念化し、配置し、適応させるか、そしてそれが彼らのアイデンティティや生活にどのように影響しているのかを明らかにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Watanabe Yukinori, Rupavijetra Phetcharee, Chompikul Jiraporn, Rupavijetra Ploypailin	4. 巻 15
2. 論文標題 A Narrative Inquiry into Educational Decision-Making in Thai-Japanese Families in Thailand	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Education Studies	6. 最初と最後の頁 52～64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5539/ies.v15n6p52	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Watanabe, Yukinori; Fujita-Round, Sachiyo; Qiu, Xiaolan; Sun, Wonsuk; Ryu, SeoungHo; Yang, Soyeon; Rupavijetra, Phetcharee; Chompikul, Jiraporn; Rupavijetra, Ploypailin; Toh, Glenn	4. 巻 40
2. 論文標題 Interim report on the educational belief of families with Japanese marriage migrants : analysis of life stories in five Asian countries	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 相模女子大学文化研究	6. 最初と最後の頁 39-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 0件/うち国際学会 11件）

1. 発表者名 FUJITA - ROUND, Sachiyo
2. 発表標題 Language transmission in Japanese/Thai intermarriage families in Chiang Mai, Thailand: the role of Japanese supplementary school and parental school choice
3. 学会等名 13th Biennial Conference of the Comparative Education Society of Asia, November 24-26（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 WATANABE, Yukinori
2. 発表標題 Resilience and Rebuilding in the Aftermath of Crisis: Examining Japanese-East Asian Mixed Marriages, Education, Life Trajectories in the Face of a Pandemic
3. 学会等名 13th Biennial Conference of the Comparative Education Society of Asia, November 24-26（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Jocelyn O. CELERO
2. 発表標題 Of Love, Cohabitation, Re/marriage: Gendered Politics of Intimacy among Intermarried Filipinas and Japanese in the Philippines.
3. 学会等名 17th International conference of the European Association for Japanese Studies, August 17-20 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Jocelyn O. CELERO
2. 発表標題 Fathering and Social Integration among Japanese Migrant Men in Japanese-Filipino Families: An Ethnographic Inquiry
3. 学会等名 The Migration Conference, August 23-26 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Jocelyn O. CELERO
2. 発表標題 "She doesn't speak the language, but she understands Me": Linguistic Negotiations between Japanese and Filipino Parents in Bi/Multilingualizing Japanese-Filipino Children
3. 学会等名 8th Biennial International Conference of the Japanese Studies Association of Southeast Asia, December 20-22 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 WATANABE, Yukinori
2. 発表標題 Dynamics of Language Use in Japanese-Thai Intermarried Families: A Case Study of Thai and Japanese Couples
3. 学会等名 8th Biennial International Conference of the Japanese Studies Association of Southeast Asia, December 20-22 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Wonsuk SUN
2. 発表標題 Language Choices in Japanese-Korean Intermarried Families Overseas: Insights from South Korea
3. 学会等名 8th Biennial International Conference of the Japanese Studies Association of Southeast Asia, December 20-22 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 HATTORI Miki
2. 発表標題 Case Study on Language and School Education in Japanese-Taiwanese International Marriage Families Residing in Taiwan
3. 学会等名 8th Biennial International Conference of the Japanese Studies Association of Southeast Asia, December 20-22 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Wonsuk SUN, Seungho YOO, Seyeon YANG
2. 発表標題 Language and Education of Korean-Japanese Mixed Families in Korea: The Role of Parents
3. 学会等名 2023 Association for Asian Studies in Asia, June 24-27 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Jocelyn O. CELERO
2. 発表標題 Fathering Mixed Children: Intergenerational Comparison of Fathering Practices and Perceptions of Mixedness Among Japanese Migrants in the Philippines
3. 学会等名 2023 Association for Asian Studies in Asia, June 24-27 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 渡辺幸倫
2. 発表標題 フィリピンにおける日本人結婚移住者の教育観 コロナ禍による教育意識と実践への影響を中心に
3. 学会等名 日本社会教育学会 第69回研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 服部美貴
2. 発表標題 台湾在住台日国際結婚家庭の日本人の父親による日本語継承とFLP
3. 学会等名 韓国日本語學會 第46回 國際學術發表大會
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 WATANABE Yukinori
2. 発表標題 The educational views of Japanese marriage migrant fathers in the Philippines
3. 学会等名 JSA-Asean Conference The 7th Biennial International e-Conference (國際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 渡辺幸倫
2. 発表標題 在外日本人結婚移住者の教育観 台湾在住者のライフストーリーから
3. 学会等名 國際理解教育学会30回研究大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Watanabe, Yukinori	4. 発行年 2024年
2. 出版社 De La Salle University Publishing House.	5. 総ページ数 -
3. 書名 Education and Migration Before and During the Pandemic: The Changing Views of Intermarried Japanese Fathers Living in the Philippines. In Zulueta, J.O. (ed.) Chronicles of Migrant Lives During COVID-19: Filipinos in Japan and Japanese in the Philippines.	

1. 著者名 Glenn Toh	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Palgrave Macmillan Cham	5. 総ページ数 131
3. 書名 Educating Children from Cross-Border Marriages Understanding Japanese Heritage Transnational Families in Singapore	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>国際結婚移民 アジアにおける家族とライフストーリー https://www.intermarriage.asia/</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	藤田ラウンド 幸世 (Fujita Round Sachiyo) (60383535)	横浜市立大学・都市社会文化研究科・客員研究員 (22701)	

6. 研究組織 (つづき)

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	宣 元錫 (Sun Wonsuk) (10466906)	大阪経済法科大学・公私立大学の部局等・研究員 (34427)	
研究分担者	渡辺 長 (Watanabe Osamu) (40742044)	帝京科学大学・医療科学部・講師 (33501)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	リュウ スンホ (Ryu Seungho)	江原大学校(韓国)	
研究協力者	チョンピクル ジラポーン (Chompikul Jiraporn)	マヒドン大学(タイ)	
研究協力者	ルーパウィジェトラ ペチャリー (Rupavijetra Petcharee)	チェンマイ大学(タイ)	
研究協力者	トウ グレン (Toh Glenn)	南洋工科大学(シンガポール)	
研究協力者	セレロ ジョセリン (Celero Jocelyn)	フィリピン大学ディリマン校(フィリピン)・Asian Center	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	服部 美貴 (HATTORI Miki)	国立台湾大学	
研究協力者	増古 剛久 (MASUKO Takehisa)	ラブラプセブ国際大学(フィリピン)	
研究協力者	裘 曉蘭 (QIU Xiaolan)	上海社会科学院	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計4件

国際研究集会 Educational beliefs of families with Japanese marriage migrants: Analysis of life stories in five Asian countries	開催年 2024年～2024年
国際研究集会 Educational beliefs of families with Japanese marriage migrants: Analysis of life stories in five Asian countries	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 Educational beliefs of families with Japanese marriage migrants: Analysis of life stories in five Asian countries	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 The educational belief of families with Japanese marriage migrants: Analysis of life stories in five Asian countries (Cases in Thailand) 2020	開催年 2021年～2021年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
中国	上海社会科学院			
韓国	江原大学			
タイ	チェンマイ大学	マヒドン大学		
シンガポール	南洋工科大学			
台湾	国立台湾大学	台南応用科技大学		

共同研究相手国	相手方研究機関			
フィリピン	フィリピン大学	ラプラセブ国際大学		